



学部新設！多くの保証人で賑わう横浜キャンパス

未来を拓く人材を育てるデザイン・データ科学部

午前10時からメディア情報学部、午後1時から環境学部とデザイン・データ科学部の連絡会が開催されました。

2023年4月に新設されたばかりのデザイン・データ科学部では、はじめに学部長 関良明教授が、「本学部の開設により、横浜キャンパスは3学部体制となった。未来を切り拓くこれからの職種に、優秀な人材を輩出したい」と意気込みを語りました。

続いて教務委員長 大久保寛基教授が「本学部の授業は現在、非常に順調」と述べた上で、「1～2年次にはグローバル教養や専門知識の基礎科目の授業を中心に学修することで、実践的な応用力のための地盤固めを行い、3～4年次には、専門応用の科目や、学びの総仕上げであるキャップストーンプロジェクトに取り組めます」と説明しました。キャップストーンプロジェクトは、企業や現場が現実と直面しているような実践的な課題について、学生がチームを組んで解決を目指すもの。チームワーク、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、課題解決力を育むカリキュラムです。



新設間もないデザイン・データ科学部の説明会には数多くの保証人が参加しました

再び壇上に立った関教授は、「大学院卒は企業からの需要や評価が高く、最近では募集要件が院卒に限られる企業もある。就職後、社会人コースで博士号取得の道を残すこともできる」

など大学院進学的重要性を強調し、「本学部1期生は学修意欲が高く、進学を希望する者も少なくない。私たちが積極的に支援したい」と紹介しました。

保証人は国際人育成プログラムTAPに大きな関心を

クラス別の懇談会では、多くの質疑応答があり、その中でも同学部が推奨している国際人育成プログラムTAP(東京都市大学オーストラリアプログラム)に関する質問が多く出され、保証人の関心の高さを伺わせました。

「留学する息子は料理が全くできない。どの程度教えたらいいか」という質問に対しては、「簡単な日本食が作れると(現地学生に)人気が出る。実際に、冷や奴を作ったら、ルームメイトから質問攻めになったという話を聞く。(コミュニケーションのためにも)簡単な料理は作れた方がよい」と応じました。「オーストラリアでの生活の様子が分からない」という問いには、「現地で学ぶ科目は学修要覧に記してある。生活面では原則寮生活でキッチンとリビングは共用。同じ寮に住む日本人は4人中2人までとなる」など説明しました。

なお環境学部とメディア情報学部は、全体説明会の後、学科・学年別の懇談会を行いました。

世田谷・横浜両キャンパスでの閉幕をもって、2023年度の「保証人対象 大学との連絡会」はつつがなくすべての日程を終了しました。来年度、より多くの保証人のご参加をお待ちしています。



横浜キャンパス、連絡会受付の様子

広島会場

地方会場で、大学の「いま」を伝える

世田谷キャンパス キャリア支援課 課長補佐 志藤 圭

昭和42年の開催から数えて今年で57回目を迎えた「保証人対象 大学との連絡会」。今年度は全国21会場で開催いたしました。今回は「広島会場」からご報告いたします。

『広島会場』は、9月9日(土)10時00分より「ホテルグランヴィア広島」を会場に開催し、広島県を中心に近県より10世帯12名の保証人の方にご参加いただきました。大学からは教員と職員それぞれ1名が現地に出向き、当日配布した冊子とパワーポイントによるスライドを用いて、ご説明申し上げました。

「大学の近況」では、今年度開設したデザイン・データ科学部の紹介に始まり、世田谷キャンパスで進行中のキャンパスリニューアル工事の進捗状況等についてご紹介しました。「キャンパスライフ」では学生生活における支援体制について、「学修の流れ」では4年間の学修の流れや成績通知書の見方について、「大学院進学・就職」では、大学院進学の特典・デメリット

についての紹介に続き、近年の就職事情や本学における就職実績と就職支援体制についてご説明をさせていただき、大学の「いま」について理解を深めていただきました。

最後に同窓会組織である校友会の広島支部より、支部の活動についてご案内があり、地域で活躍するOBOGの存在や卒業後のネットワークについて保証人の皆様にご理解いただく機会となりました。

本学は、今後もこうした機会を大切にして保証人のみなさまと情報交換をさせていただき、より良い大学へ発展させてまいりたいと考えています。

